



## 大会を振り返って

男子ナショナルチーム 監督 篠原信一

世界柔道選手権2010東京大会は、男子が106カ国・地域540名の過去最多の選手が出場し、9月9日から13日までの5日間東京の代々木体育館で開催された。

昨年は、男子柔道史上最悪の金メダル0という結果を残してしまっていたが、今年は金4個、銀1個、銅5個を獲得することができた。しかし、これで日本柔道が完全復活したとは考えていない。小野、鈴木を中心としたベテランの復活、そしてより若手の対応があってこそ2年後のロンドンオリンピックに繋がっていくと思っている。今回の結果を次に活かすことが、我々に課された事だと認識している。

世界選手権は毎年開催されるので、毎回結果を出すには選手層の厚さが必要となってくる。ジュニア、カデ世代からの強化を徹底する必要があると思う。今後は、現状強化システムのナショナル・シニア・ジュニアの連携をより一層密にして、一貫した強化が必要だと思う。

また、本大会の男子の競技内容としては、メダル獲得国が15カ国であった。そのなかで複数の金メダルを獲得したのは日本のみであった。金以外に複数のメダルを獲得したのは5カ国のみである。このことから、いかに世界のレベルが平均化しているかがわかる。過去の強豪国だけではなく、中央アジアやアフリカ等の新勢力の台頭もあり、以前のように一つの国が金メダルを複数個獲得できるようなことは難しいかもしれない。しかし、日本としては、今回の結果を次も続けていかなければならない。そのためには、今回同様、国内で少人数で焦点を絞った個別分散宿泊を含め徹底的な強化を行っていく予定である。



《男子》

60kg級		90kg級	
1位	ソビロフ・リショド (ウズベキスタン)	1位	イリアディス・イリアス (ギリシャ)
2位	ザンタラヤ・ゲオルギー (ウクライナ)	2位	西山 大希 (日本)
3位	ガルスチャン・アルセン (ロシア)	3位	デニフ・キリル (ロシア)
4位	平岡 拓晃 (日本)	4位	ママドフ・エルハン (アゼルバイジャン)
5位	ムドラノフ・ベスラン (ロシア)	5位	グレコフ・ヴレンティン (ウクライナ)
6位	ベルデ・エリオ (イタリア)	6位	リバルテリアニ・バルラム (グルジア)
7位	アスムバニ・ダビド (グルジア)	7位	カミロ・ティアゴ (ブラジル)
8位	バイスチャー・ルドウィグ (オーストリア)	8位	シルンホフナー・マックス (オーストリア)

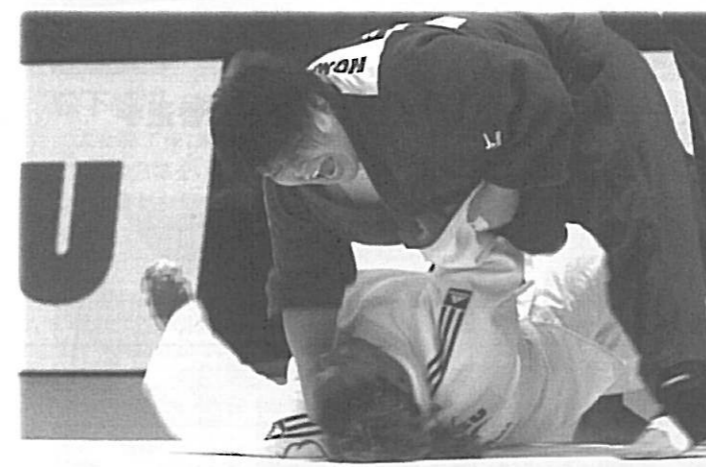
66kg級		100kg級	
1位	藤下 純平 (日本)	1位	穴井 隆裕 (日本)
2位	クナ・レアンドロ (ブラジル)	2位	フロル・ヘンク (オランダ)
3位	ワガーン・バートル・ハシュバートル (モンゴル)	3位	ディスバイン・オレイディ (キューバ)
4位	コルバル・ロフク (フランス)	4位	ファブレ・ティエリ (フランス)
5位	フォルモフ・ミルザビド (ウズベキスタン)	5位	カルバノフ・ウトカル (ウズベキスタン)
6位	ウリアルテ・ゴイ (スペイン)	6位	ナイダン・ツブシンバヤル (モンゴル)
7位	ガダノフ・アリム (ロシア)	7位	ガシモフ・エルマー (アゼルバイジャン)
8位	ウングババ・ミクロシュ (ハンガリー)	8位	ラコフ・マキシム (カザフスタン)

73kg級		100kg超級	
1位	秋本 啓之 (日本)	1位	リネール・テディ (フランス)
2位	エルモント・デックス (オランダ)	2位	テルザー・アンドレアス (ドイツ)
3位	栗野 靖浩 (日本)	3位	バタイユ・マチュ (フランス)
4位	ワン・キチュン (韓国)	4位	エルシェハビ・イスラム (エジプト)
5位	イサエフ・マンズル (ロシア)	5位	シウバ・ハファエル (ブラジル)
6位	ニヤムオチル・サインジャルガル (モンゴル)	6位	高橋 和彦 (日本)
7位	クバカエフ・アザット (キルギス)	7位	グジェリアニ・ラシャ (グルジア)
8位	ルグラン・ウゴ (フランス)	8位	フィステルス・アリム (オランダ)

81kg級		無差別級	
1位	キム・ジェファン (韓国)	1位	上川 大樹 (日本)
2位	ギルエイロ・レアンドロ (ブラジル)	2位	リネール・テディ (フランス)
3位	バートン・ユアン (イギリス)	3位	鈴木 桂治 (日本)
4位	高松 正徳 (日本)	4位	立山 広晋 (日本)
5位	カント・フラビオ (ブラジル)	5位	セイードフ・ラムジディン (ウズベキスタン)
6位	ママドリ・エルヌル (アゼルバイジャン)	6位	タングリエフ・アブドゥロ (ウズベキスタン)
7位	エルモント・ギョーム (オランダ)	7位	高橋 和彦 (日本)
8位	マゴメドフ・シラズディン (ロシア)	8位	ワン・ハオ (中国)



《女子》

48kg級		70kg級	
1位	浅見 八瑠希 (日本)	1位	デコス・リュシ (フランス)
2位	福見 友子 (日本)	2位	メスザロス・アネット (ハンガリー)
3位	ドゥミトリ・アリナ (ルーマニア)	3位	藤原 頼子 (日本)
4位	メネセス・サラ (ブラジル)	4位	ストラカラサ (スロベニア)
5位	チナン・ジュネン (韓国)	5位	ブランコ・セシリア (スペイン)
6位	ジョシネ・フレデリク (フランス)	6位	ボス・エディト (オランダ)
7位	フレイトス・レアンドラ (ポルトガル)	7位	ファン・エスイ (韓国)
8位	パレト・パウラ (アルゼンチン)	8位	濱邊 美奈 (日本)

52kg級		78kg級	
1位	西田 優香 (日本)	1位	ハリゾン・カイラ (アメリカ)
2位	中村 美里 (日本)	2位	アグイアル・マイラ (ブラジル)
3位	クジュティナ・ナタリア (ロシア)	3位	韓方 聖香里 (日本)
4位	ムンフバータル・フンドマー (モンゴル)	4位	ヤン・シュウイリ (中国)
5位	ミランダ・エリカ (ブラジル)	5位	プリズツェバ・マリナ (ウクライナ)
6位	タラングル・ロミー (ドイツ)	6位	ポラト・ハイデ (ドイツ)
7位	ラモス・ジョアナ (ポルトガル)	7位	ルブラン・セリヌ (フランス)
8位	ジャン・リーチュア (中国)	8位	モスカリョク・ヴェラ (ロシア)

57kg級		78kg超級	
1位	松本 薫 (日本)	1位	杉本 美香 (日本)
2位	モンティ・ロレマ (ポルトガル)	2位	キン・カン (中国)
3位	ブクバ・ルリエタ (ギリシャ)	3位	オルティス・イダリス (キューバ)
4位	フィルツモザー・サブリナ (オーストリア)	4位	堀田 真希 (日本)
5位	カプリイオリウ・コリナ (ルーマニア)	5位	キム・ナヨン (韓国)
6位	レベティエ・ユレイディス (キューバ)	6位	リュウ・ファンヤン (中国)
7位	ハウエル・ゲマ (イギリス)	7位	ツェレンクハンド・トリゴフ (モンゴル)
8位	カラカス・ヘビグ (ハンガリー)	8位	ザドコス・カウルズラ (ポーランド)

63kg級		無差別級	
1位	上野 輝恵 (日本)	1位	杉本 美香 (日本)
2位	田中 美衣 (日本)	2位	キン・カン (中国)
3位	アベル・ユリッサ (キューバ)	3位	ドンクザン・ビリテア (ロシア)
4位	ユスポワ・ラミラ (アゼルバイジャン)	4位	田地本 愛 (日本)
5位	シュレンジャー・アリス (イスラエル)	5位	キム・ナヨン (韓国)
6位	ファン・エムデン・アニカ (オランダ)	6位	レブラン・セリヌ (フランス)
7位	ゲルビ・ヨルデン (イスラエル)	7位	ツェレンクハンド・トリゴフ (モンゴル)
8位	ウィルボルドセ・エリザベス (オランダ)	8位	プレフジャル・ガルル・カハンデグド (モンゴル)



## 戦いを終えて

女子ナショナルチーム 監督 園田隆二

52年ぶりの東京開催となった2010年世界柔道選手権において、我々女子選手団は日本柔道初の全階級制覇を目指して挑んだ。結果として金メダル6個、銀メダル3個、銅メダル4個を獲得した。全階級の優勝は果たせなかったが、過去最高の成績であった。

本大会の内容としては、女子の国別メダル獲得数を見てみるとメダル獲得国は15カ国で、複数のメダルを獲得した国は5カ国であった。この様にメダルの分散が拡大してきている中で、複数の金メダルを獲得したのは、昨年同様に日本だけであった。どの様な状況下でも確実にメダルを獲得するためには、今回の結果で満足することなく徹底した強化を今後も進める必要性を感じた。特に金メダルを逃した階級において次世代の候補選手を育てる事が急務である。さらに、シード権のない選手がなかなか入賞していないのが今大会の現状であり、国際大会においてしっかり結果を出し、ランキング(IJF)の上位を常にキープしておく必要がある。

今回、3階級において日本人同士の決勝戦となったが、各階級において高度なレベルでの競い合いが激しくなればなるほど全体のレベルを上げ、ロンドンオリンピックに繋がっていくと思う。また、日本人通算100個目の金メダルを獲得した松本(57kg級)のように、積極的に前に出て攻めきる姿勢は私達が目指すもので、他の選手も大いに学ぶべきだと思う。

しかしながら、世界のレベルは徐々に高まってきており、現状で満足することなくさらなる強化策を練っていききたい。基本的には徹底した体力強化(体幹を中心に新たなトレーニングも試みたい)、さらにルールの変更から、下半身への腕での直接攻撃は反則となったことから、今まで以上に早く強い組み手が必要となってくると思う。また様々な情報を分析し、強化に役立てたいと考えている。

世界の柔道は、我々が考えているより早く変化、進化している。今回の結果をさらに来年のフランスでの世界選手権そしてロンドンオリンピックへ繋げるためにもスタッフ、選手一丸となって頑張っていきたいと思う。

最後に大会を通じて感じたことは、これまでの我々の強化が十分な成果を挙げていることである。

## スピーディなサービス提供がシミズオクトの財産です。

昭和7年(1932年)の創業以来、シミスは時代の変化の対応とともに、業界のスペシャリストとして、多種多様なイベントに携わってきました。その中には、何万人もの会場の警備や、絶対不可能と思われたステージの設計・設営、雨や風や雪の中でイベントなど、様々な難関に直面しながらも、安心して楽しんでいただけるよう、一つ一つの課題点を確実にクリアしてきました。これらの数え切れないほどの経験は今、イベントをまるごとサポートする「シミズオクト」の貴重な財産として、よりスピーディなサービスの提供とともに活かされています。



株式会社 **シミズオクト**  
 本社 / 03-3360-7051  
<http://www.shimizu-group.co.jp>

- イベント運営管理 ● 建物総合管理
- 警備業務 ● 広告物設計施工
- 美術装置 ● 仮設舞台 ● 客席等設計製作

## 伊藤超短波の製品が日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに伊藤超短波の治療器が活躍しています。



伊藤超短波株式会社  
 〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15  
 TEL: 03(3812)1216(代)・FAX: 03(3814)4587  
<http://www.itolator.co.jp/>

# 世界の檜舞台に

## シブランド

選手用 最高級内製二重織柔道衣  
 ● 上・下両面、綿35%入り  
 ● 綿100%、綿50%入り  
 ● 綿100%、綿50%入り  
 ● 綿100%、綿50%入り  
 ¥24,150~¥29,400  
 (消費税別)

**KUSAKURA**  
 I.J.F. Official Supplier.  
 全日本柔道連盟「公認」  
 早川産業株式会社  
 〒582-0007 大阪府松原市上1-11-21  
 TEL: 072(72)1001(代) FAX: 072(72)1001  
 ホームページアドレス <http://www.kusakura.co.jp>  
 Eメール アドレス [hayakawa@kusakura.co.jp](mailto:hayakawa@kusakura.co.jp)

全日本柔道連盟推薦商品

## 畳める柔道場

壁面収納式  
 ● 既存の建物にも設置可能  
 ● 時間/手間/スペース節約  
 ● 警備費不要

Fujitas <http://judo.fujitas.co.jp>  
 フジタ工業株式会社 <http://www.fujitas.co.jp> 本社 〒407-0603 名古屋市中区三丁目5番17号 TEL: 052(691)1000 FAX: 052(691)6502

美味伝達 宮内庁御用達

# 青山

懐石料理

TEL: 03-3462-5511